

ふ れ あ い

第128号

令和7年12月 発行

発 行 人

青少年育成潮来市民会議

会 長 仲 澤 進

潮来市青少年相談員連絡協議会

会 長 金 塚 茂

特集

潮来市青少年のつどい

発表者作文掲載



令和7年度「潮来市青少年のつどい」発表者のみなさん

令和
7年度

「潮来市青少年のつどい」 開催

「青少年のつどい」は、青少年が日常生活で考えていることを発表し合うことにより、将来の夢や希望を育むとともに市民に青少年の健全育成に対する理解を深めていただくとするものです。

第一部の青少年の主張発表では、市内の小中学校、高等学校から選出された児童・生徒の皆さんが発表いたしました。小学校の部では「ぼくの夢、私の夢」を、中学校の部では「家庭・学校生活・社会（地域活動）及び身の回りの友達との関わりなど」を、高校の部では「高校生の主張」を、それぞれテーマとしました。第二部は、潮来第一中学校生徒による潮来ばやし特別演奏が行われました。

第一部はご自宅でもお聞きいただけるよう、FMかしまでの放送を行ないます。聞き逃し配信もございますので、右記QRコードよりアクセスして発表をお聞きください。

URL : <https://m.youtube.com/channel/UC-JcAKrLM0sy-NpkSC3c8XA/featured>



主催者あいさつ



共催者あいさつ



第二部



高校生

潮来高校のみなさんには、司会をはじめ運営にご協力をいただきました。

令和7年度 潮来市青少年のつどい

ぼくの夢 わたしの夢



■ 潮来小学校 ■

僕 と サ ッ カ ー

5年 おにざわ はるき
鬼澤 元樹

サッカーは、僕の人生でとても大切なものだ。サッカーは、僕に楽しさや夢をあたえてくれる。

僕は5人兄弟で、兄や姉はみんなサッカーをやっている。僕は小さい頃から、兄や姉がサッカーをする姿を見てきた。大会に応援に行ったとき、点を決める姿に「僕もサッカーをやりたい。お兄ちゃんやお姉ちゃんみたいにかっこよくシュートを決められるようになりたい。」そう思ったのが、僕がサッカーを始めたきっかけだ。

僕は、小学1年生から鹿嶋市にあるチームでサッカーを始めた。はじめは、ボールと仲良くなれなくて、なかなかシュートが打てず、点を決めることができなかった。しかし、兄や姉のように上手くなるために、あきらめずに練習を続けてきた。

僕はサッカーを上達させるために、自分の武器を磨くことに力を入れた。僕の武器は、ドリブルだ。ドリブルが上手いと、ボールを取られずに相手を抜くことができるので、チャンスをつくることができる。僕は、ドリブルを自分の武器にするために、1年生のころから毎日欠かさず自主練習をしてきた。時間があればいつもボールを触るようにして、家の中にマーカーを置いてドリブルの練習をしてきた。自分で考えた練習なので、やるのが楽しい。疲れていても、自分が上手くなってプ

ロになることを考えると、頑張ることができた。

また、プロのサッカー選手が、相手と戦える体をつくるには、バランスの良い食事や規則正しい生活習慣が大切だと言っていたので、僕も心がけるようになった。野菜やお肉など好き嫌いせずにバランスよく食べて、たくさん睡眠をとった。午後10時から午前2時の間はゴールデンタイムと言って身長が伸びやすい時間なので、その時間に寝ることも意識している。

努力の成果が現れた出来事があった。4年生の頃、ある練習で、相手が僕のボールに付いてきて、ボールを取ろうとしてきたけれど、取られないように体全体を使って相手をかわしてシュートを決めることができた。監督やコーチがたくさんほめてくれたことが、僕はブラジルに旅行に行くよりもうれしかった。この時から、今までできなかったことができるようになることが、楽しいと感じるようになった。

僕は、もっと技を磨き、力をつけて上のレベルで戦いたい。プロサッカー選手になって日本をワールドカップで優勝させたい。そして、チームメイトや会場のみんなと喜び合いたい。プロサッカー選手になるという夢があることで、目標に向かって努力を続けたり、同じ夢をもつ友達とサッカーについて話し合ったりして、とても楽しく過ごしている。これからも、夢をかなえるために自分ができることを続けていきたい。



■ 津知小学校 ■

ぼくの将来の夢

5年 ^{つちこ}土子 ^{あゆと}歩翔

ぼくは将来、バスケットボール選手になって、世界で活やくできるようになりたいです。

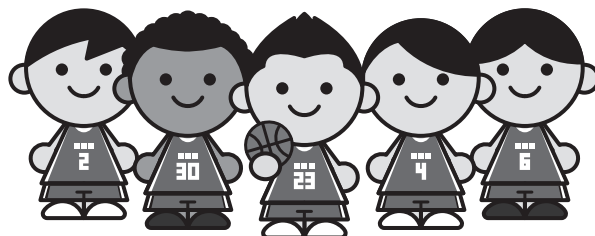
ぼくは、小学校2年生からバスケットボールを習っていて、バスケットボールが大好きです。今は背が低いので、将来、背が高い選手に勝てるように、ドリブルやパスの練習をしたり、シュートをたくさん打ったりする練習にはげんでいます。お父さんやコーチから、バスケットボールはディフェンスも大事と教えてもらっているのですが、難しいですが、コーチやチームメイトからアドバイスをもらいながら練習しています。

ぼくにはあこがれの選手がいます。それは元NBA選手だったコービー・ブライアント選手です。ぼくはコービー選手が大好きなので、同じ24番をつけています。コービー選手はシュートが上手で、ディフェンスも同じくらい上手なので、ぼくの目標の選手です。しかし、コービー選手はヘリコプターの事故で亡くなってしまったので、今はこの世界にはいません。コービー選手と一緒にバスケットボールをする夢は叶わなくなってしまったけれど、ぼくのプレーが天国にいるコービー選手までとどくように精一杯がんばりたいです。

そのためにぼくは、バスケットボールだけではなく、学校の勉強も頑張っています。全教科のテストで百点をとることができるよう宿題に毎日しっかり取り組んでいます。また、学級委員として学級のみんなをまとめたり、盛り上げたりしています。このことが、バスケットボールのチームの雰囲気盛り上げることに繋がると思って取り組んでいます。

ぼくがコービー選手から夢をもらったように、ぼくも観ている人達に夢をあげられる選手になりたいです。

これからも、バスケットボールのプレーを通して、お父さんやお母さんに日ごろの感謝を伝えていきたいです。また、コーチやチームメイトから信頼されるような選手になるために練習をがんばります。



■ 延方小学校 ■

心を動かすパフォーマーになる

5年 ^{すずき}鈴木 ^{じゅり}朱莉

「世界に通用するパフォーマーになること」それがわたしの将来の夢です。

わたしは2年生のころからK-POPダンスを習っています。習い始めたきっかけは小さい頃から歌とダンスが大好きで、いつか私もステージに立ち、堂々と自分を表現したいと思ったからです。そして、母が見つけてくれたダンス教室に通うようになってから、私の夢ははっきりしたものになりました。

はじめてのダンス教室。動きがとても難しく、先生のように手足を動かして、体全体を使って踊ることができませんでした。それでも、「先生みたいに上手に踊れるようになりたい」と思い必死に練習しました。家に帰ってからもダンス動画を見直して、復習しました。時間があれば何度も何度も動きを確認しました。

わたしは、一度もダンスをやめたいと思ったことがありません。それは、憧れの人の存在が大きいからです。その人が踊っている姿は本当にかっこよくて、どんなダンスでも、笑顔で、一生懸命パフォーマンスしています。その姿にわたしは何度も背中を押してもらいました。こんなにかっこいいダンスを踊れるようになるには、たくさんの努力をしてきたんだと動画を見て感じました。表現力だけではなく、諦めない

心、努力する大切さをわたしは憧れの人から教えてもらいました。

今年の4月に、ダンスの発表会がありました。何度も振り付けを確認し、本番は無事に踊りきることができました。発表会が終わり、わたしは気づきました。自分の中でダンスに対しての考えが大きく変わったのです。今までは、なんとなく「自分が楽しく踊ればいい」という気持ちでした。ですが、「なんとなく」ではなく、努力をすれば先生のようにもっと上手に踊れる。諦めなければ可能性は広がる。わたしが憧れた人のように、自分のダンスを見た人が何かに挑戦してみたいと思ってもらえるような、そんなきっかけがつけられるパフォーマーになりたいと強く思うようになりました。この経験を通して、これからも自分の夢を大切に、目の前の課題にあきらめることなく挑戦し続けます。

わたしは、わたしのダンスを見てくれた一人一人に、努力をすることのすばらしさを伝え、夢に向かって挑戦するその背中を押せるようなパフォーマーになりたいです。これがわたしの将来の夢です。



■ 日の出小学校 ■

未来をつくる私の願い

5年 ^{すずき}鈴木 ^{ゆうな}結菜

みなさんは今、自分の夢を持っていますか。わたしは患者さんの不安を少なくできるような、やさしく笑顔で接することができる看護師さんになりたいです。わたしが看護師さんになることを目指した理由は二つあります。

一つ目は、わたしが以前に入院をした時のことです。わたしは、小学校3年生のころ、病気になってしまい入院しました。いつもいっしょにいた家族とはなれて、静かな病室に一人でしたので「家に帰って家族に会いたいな」と思っていました。その時、看護師さんがわたしの不安そうな顔を見てわたしの隣に寄り添ってやさしく

「だいじょうぶだよ。すぐに治るから安心してね。」と言ってくれました。わたしは、その一言を聞いて家族といっしょに話しているように感じられて、とても安心できました。そして、わたしのように入院をして不安やさみしい思いをしているという思いから、患者さんの気持ちに寄り添い、支えになりたいと思い、看護師さんを目指しました。

二つ目は、わたしのお母さんが看護師さんとして、ケガをしてしまった人や、病気になってしまった人を見て、支え・

助けている姿を見てわたしも人を支え・助けてあげて患者さんを笑顔にしたい、と思ったからです。仕事や勉強で夜おそくまで帰ってこないなと思うこともあります。そんな時は、家にいてほしいな、と思うこともありました。だけど家族だけでなく、たくさんの人を支え・助けているお母さんを誇りに思っています。だから、わたしも、お母さんみたいに人の役に立ちたいと思い、看護師さんを目指しました。

わたしはお母さんにとっても似ていて、人とお話することが大好きです。きっと患者さんとお話をしているお母さんもこんなふうに楽しくお話をしているのだと思います。だからこそ、看護師さんになるという夢をかなえるために、積極的に話すだけでなく、相手の話をよく聞いて、相手の気持ちに寄り添える人になれるように努力をしています。これからもこの努力を続けて、いりょうのことにについても学んでいきたいと思っています。そして将来、立派な看護師さんになって、患者さん一人ひとりの笑顔を守れるわたしになります。



■ 牛堀小学校 ■

保護犬や保護ねこを助きたい

5年 ^{かたばみ}方波見 ^{ゆづき}柚月

わたしのしょう来の夢は、保護犬や保護ねこを助ける仕事につくことです。わたしは、小さいころから動物が大好きで、犬やねこを見ると、ついさわりたくなってしまう。そんなとき、テレビで保護犬や保護ねこのことを知り、とてもしょうげきを受けました。飼うことができなくなってしまった犬やねこが、たくさんいること、そして、その動物たちが悲しく、さびしい思いをしていることを初めて知ったのです。

わたしは、さらに、保護犬や保護ねこについてもっと知りたくなり、インターネットで調べてみることにしました。保護された犬やねこの中には、人間にひどいことをされた犬やねこもあり、とても悲しい気持ちになりました。でも、そんな動物たちも、少しずつやさしく世話をしてあげたり、なでられたりすると気持ちがよくなり始め、少しずつ心を開いてくれることも知りました。人間と同じように、動物にも心があり、愛されるために、生まれてきたのだと思います。

しょう来、わたしは保護犬や保護ねこを助ける仕事につき、保護施設や、自分の家で保護された犬やねこを助けてあげられるようにしたいです。そのためには、わたしは、動物の体や心のことを学ばなければいけません。今はまだ、わたし自身が子どもで、何かできるわけではないけれども、

動物についての知しきを本で身につけたり、ボランティアに参加したりして、少しずつできることを増やしていきたいです。

実際に保護されている動物の数は、犬とねこを合わせて、約45,000頭であることが環境省の統計から分かりました。そのうちの約63%は人に引きわたされています。しかし、残りの動物たちは、残念ながら処分対象になっています。この数は、年々少なくなっていると書かれていますが、決して少ない数ではないと思います。これらの数を考えると、わたし一人でできることは、限られてしまうと思います。だからこそ、わたしの夢をたくさんの人に話して、保護犬や保護ねこのことをもっと多くの人に知ってもらいたいと思います。「かわいそう」だけではなく、「助けない」と思ってくれる人が一人でも増えれば、もっとたくさんの命が救えるはずですよ。

わたしは、これからも、動物へのやさしい気持ちを大切に、わたしにできることを考えながら行動していこうと思っています。いつか、全ての犬やねこ、動物達が幸せに生きられる世界を作るために、わたしも力になりたいです。わたしの夢の実現に向かって取り組んでいきたいと思っています。



家庭・学校生活・社会(地域活動)及び 身の回りの友達との関わりなど



■ 潮来第一中学校 ■

教えてもらった「大切」なこと

3年 おおくぼ さら 大久保 紗良

私は、中学校に入って吹奏楽部に入りました。そこで、何にでもチャレンジすること、仲間と助け合うことの大切さを学びました。

入部してすぐに、コンクールに向けて打楽器を練習することになりました。1年生の中から1人だけ、打楽器を演奏する必要があったからです。私以外の1年生は興味がなさそうだったので、だったら私がやってみようと思いました。私にとって、2・3年生とコンクールに出ることは勇気のいるチャレンジでした。最初は楽譜の読み方や打楽器の扱い方、叩き方など分からないことだらけでした。でも、3年生の先輩や顧問の先生が「こうやって叩くんだよ」と実際に叩きながら教えてくれたことで、曲の流れがなんとなく分かるようになりました。それでも、難しくてうまくいかないところがあって、何度も何度も練習しました。打楽器を練習していくうちに、打楽器を演奏することが楽しくなりました。その結果、コンクール本番では次点という結果でとても嬉しかったです。チャレンジしてみたことで、打楽器の良さを知ることができ、興味のないことでもなんでもやってみようと思いました。ただ、私がもっとうまく叩けていれば県大会に出場できたかもしれないと思い、少し悔しい気持ちもありました。だから、来年のコンクールでは県大会に行けるように練習しようという強い気持ちが生まれました。

コンクールが終わると、3年生は引退して、2年生の先輩も退部してしまったので、クラリネットが1人だけになってしまいました。4人から1人になってしまったのでとても心細かったです。同じ楽器の先輩に分からないところも聞けないし、自分の音やリズムが合っているのかも分かりませんでした。楽器の違う先輩がリズムやタイミングを教えてくれたり、「一緒に合わせよう」「こんな感じで叩くんだよ」と声をかけたりして

くれたおかげで練習を頑張れました。

私が2年生になって、初めての後輩ができました。後輩ができて嬉しい気持ちもあったし、私が教えられるのか不安な気持ちもありました。なぜなら、先輩は入部したばかりの私に楽器のことや部活のことなど色々なことを分かりやすく教えてくれて、私もあんな風に教えられるのかなと思ったからです。私も先輩のように教えられるようになりたいと思っていました。しかし、自分が思っていることを言葉に出して伝えるのがとても難しくてどうしたらいいか分からないときがありました。思った通りの音が出ていない後輩に対して、どんなふうにもアドバイスをしてもいいかわからず、タブレットで調べたり、楽器についての本を見るようにしたりしましたが、なかなかうまく教えられませんでした。そこで、打楽器を教えてもらったときに、実際に叩きながら教えてくれたことを思い出しました。先輩や先生が私に教えてくれた姿を思い出して、後輩に教えるようにしました。言葉に出して伝えるのが苦手だったので、一緒に吹いたり同じ音を出したり実際に叩いて見せたりするようになりました。すると、良い演奏になっていきました。

昨年のコンクールでは、9年ぶりに県大会に行くことができました。コンクールの曲を何回も練習したり、顧問の先生にアドバイスをもらったりして、どんな表現で吹けばいいのか工夫しました。さらに、部員同士で「音が大きすぎる」、「テンポに合っていない」と相手が気付いていないことを教え合ったり、曲のイメージを全員でそろえたりしたことが、県大会出場に繋がったと思います。県大会の結果は銅賞でしたが、それでも、県大会に行けたことがとても嬉しく、一生懸命に練習した成果だと感じました。

先輩が引退するときに、私に言ってくれた「なんでも言ってもいいんだよ」という言葉に、まだまだ自分の気持ちを言葉で伝えられていないと気付きました。最後のコンクールでも、これからも仲間と助け合いながら、県大会にいけるように良い演奏をしたいです。

■ 潮来第二中学校 ■

声に出して、素を出して

3年 くろす あおい 黒須 あおい

皆さんは思っていることや考えていることを声に出してまわりの人たちに伝えていきますか。私はこれまであまりできませんでした。

今までの私は、声に出して伝えなくても空気感や雰囲気、言動などから私の思いを読み取ってくれるだろう、みんなも自然と読み取っているのだろう、となんの根拠もなく思っていました。しかしある経験からそうではないと気づいたのです。

それは授業でグループ活動を行っているときです。一緒になったグループのメンバーは今まであまり関わったこと

のない人たちでした。普段は人見知りや警戒心からあまりうちとけられなかったのですが、みんな優しく接してくれ、私は安心した気持ちでグループのみんなと接することができました。

そんなある日のこと、グループのみんなと会話をしていたとき「こんなに明るいんだ！意外だった。」また「思っていたよりも話しやすいね。」とグループのみんなから言われました。

私は、普段通りに過ごしているつもりだったのでその言葉にとっても不意をつかれました。今までそんなことを言われたことがなく、長く共に過ごしていたみんなは、すでに私のその一面を知っていると思っていたのでとても驚いたのです。

この経験を通して、私はいままでにない考えを持つことができました。

1つ目は、どれだけ相手と長い付き合いでも相手は自分の全てを知っているわけではないということです。だからこそ、ただ相手に感じとってもらうのを待つのではなく、自分から言葉にすることでお互いのことをより理解することができ、より深い関係になれるのではないかと思います。

2つ目は、人から認めてもらったうれしさ、心地よさについてです。私は自分の考えを伝えることが怖いと思うときがありました。それは誰かに否定されることが怖く、まるで自分自身を否定されているように思うからです。そのため、かりそめの自分をつくり傷つかわないようにしていました。しかし、あの言葉をもらった時、かりそめの自分よりも本物の自分の方がよいと自分自身を認めてもらったような気がしてとてもうれしく、心が楽になりました。自分を出すことは怖いかもしれませんが、出すことで心が楽になる人もいると思います。

また私はこんな経験もあります。部活で卒業する先輩方に贈るプレゼントの案を考えていた時です。手作りのお人形に決まり「それだけじゃ寂しくない？」という意見がで

ました。そこで私は事前に調べていた、可愛くて簡単に作れる「モールフラワー」に目をつけ「これよくない？」と提案しました。すると「これ可愛い！」や「いいね、やろうよ！」と言ってもらえたのです。そのときどう思われるのかと緊張していたのでとてもうれしくなり、それから楽しく活動をした記憶があります。

この経験から、これからは自分から思いや意見を積極的に伝えていきたいと思いました。そして、以前の私のような自分自身に自信がない人に素を出すことの心地よさを教えられる人になりたいと思いました。

私と同じように声に出すのが少し苦手なみなさんは「声に出して、素を出して。」きっと、今までと違った自分がみつかるとは思います。



■ 日の出中学校 ■

完璧と適当の狭間で

3年 かたぎり し おん 片桐 詩音

「完璧を目指す不幸になる」

ピアノの上達法を調べたとき、1番に目に入ったその動画、どこか心当たりがあり、いつもの練習を思い返してみました。1度ミスをしただけですぐに最初からやり直したくなり、なかなか進まず同じことのくりかえし。完璧に弾けるようになりたいから、完璧にできるまで弾き続ける。それが一番上達に繋がる方法だと信じて練習し続けていたのに、なんだか否定されたような気分になりました。私はさらに気になってしまい、完璧主義であることの「デメリット」について調べてみました。すると、「自己嫌悪に陥りやすい、ストレスや不安を抱えやすい、人間関係の悪化」といったようなことが書かれていました。完璧を目指すことに、本当にこんなにデメリットがあるのでしょうか。

私は昔から、手を抜くことを許せず、どんなことも完璧にできていないと気が済まない性格でした。いわゆる「完璧主義」というのでしょうか。いつも自分で自分を追い込んでいました。これはピアノに限った話ではなく、仲の良い友人たちとする遊びやゲームのときも同じです。純粋に楽しんでやればいいのにすぐにムキになって、結局いつも疲れてしまう自分が馬鹿馬鹿しく思えてきます。

生徒会や学校行事の実行委員になったときは、「あなたなら完璧にできるから大丈夫」と言ってもらえて、先生や友達に信頼してもらっているのだと嬉しさを感じたのと同時に、期待を裏切ってしまったらどう思われるだろう、完璧にできなかったらどうしようと、どんどんネガティブな思考になってしまいました。

「まあ、なんとかなるでしょ」と言って、何事も重く捉えずぐずぐずにのびのびと生きている人を見て、つつい腹を立ててしまいます。

クラスには、私と対照的な性格を持つ友達があります。それこそ口癖は、「なんとかなるでしょ」「まあいいか」言ってしまう、「適当」なのでしょう。私は「適当」という言葉を悪い意味に捉えてしまいがちでした。

それでも私はいつからか思えるようになりました。「適当」なのは悪いことではない、その人の立派な長所でもあるのだということ。

その友達は「適当」がゆえに抜けているところも多かったのですが、そんな友達をサポートしてくれる人がどんな場面にもたくさんいました。ずっと羨ましいと思っていました。私はこんなにも完璧にならないと、と焦りながら一生懸命頑張っているのに、「なんとかなるでしょ」という精神で、周りの人に助けてもらいながらすんなりと乗り越えていくその友達。なんだか私が損しているような気持ちになりました。ですがその友達と過ごす中で、たとえ全てを完璧にこなせなくても、少しくらいミスをしてしまっても、カバーして助けてくれる人は必ずいるのだと気づくことができました。すると心が少しだけ軽くなった気がしました。辛いときは誰かに助けを求めればいいのです。自分を犠牲にしてまで完璧である必要は決してなかったのです。そんな簡単なことに、私は今やっと気づくことができました。

まだ、私にとって手を抜くことは簡単なこととは言えませんし、そんな自分に疲れてしまうこともたくさんありますが、その友達のように良い意味で「適当」になれて、またそんな人を陰で支えられるような、優しく強い存在になりたいと思っています。

とはいえ、「完璧主義」だった私を完全に変えて、なかったことにはしたくないのが本音です。なぜなら、どんなことも「完璧」にしようと努力してきたことを、無駄な努力だったとは言いたくないからです。今まで「適当」にやってきた人と比べてしまうと、確かに私は損をしていたかもしれませんが、周りの人からの信頼を着実に勝ち取ってきたのはこんな私の性格があったからだと思いたいです。決して不幸ではありません。

私はきっと、「完璧を目指す不幸になる」のではなく、「適当になれると楽になる」というだけなのではないかと思います。

「完璧を目指す不幸になる」みなさんはこの言葉は本当に正しいと思いますか。



■ 牛堀中学校 ■

笑顔と幸せが増えますように

3年 もりうち 森内 みお 美桜

この世界には、様々な病気や障害に立ち向かっている人々がたくさんいます。そのような人たちに私は何かできることはないだろうか、少しでも役に立てることはないだろうか、と考えます。

私は、ふと思い出すことがあります。4・5歳の頃のことです。母の仕事の関係で、何度かボランティアさん

たちと一緒に街頭募金運動に参加させていただきました。当時の幼かった私は、この募金の使い道までは理解することなく、「募金のご協力をお願いします。」と一生懸命声かけをしていたことを覚えています。今になって母に改めて、共同募金の使い道を聞いてみました。母は、「誰もが安心して暮らしやすい街にしようと、一人一人の寄付が力となり、高齢者、障害者、子どもたちなどを支援する活動や、募金の一部は災害準備金として積み立てられ、災害時に使えるお金として被災地を支えている。」と言っていました。それを聞いた私は、少しでも多くの募金、たった1円の募金、気持ちが込められている募金はとても大切で大事だと思いました。また、この経験から、募金箱を見るたびに思い出し、なるべく募金をするようにしています。少しでも多くの人が募金をし、多くの人たちの役に立てたらいいと思いました。

しかし、街頭募金運動がコロナの影響により、呼びかけなどがなくなりました。なくなった頃に、何かできることはないか考えました。その頃の私は、髪の毛が長く、髪の毛を活用して、ヘアドネーションをすることにしました。ヘアドネーションとは、カットした髪の毛を寄付することです。寄付され

た髪の毛でウィッグを作り、病気や事故で頭髮を無くした人たちに送られます。そして当日になり、髪の毛を小さい束に分けてゴムで結んでもらい、切ったものを見せてもらったり、触らせていただいたりしました。その瞬間私は、私の髪の毛が誰かの役に立つと思うと嬉しかったことを覚えています。この活動を通して、病気や事故等により髪の毛を失ってしまった人が笑顔と幸せが増えますように願っています。

今私は、中学3年生となり進路選択のときが迫ってきました。4・5歳のときに何も分からずに募金活動に参加していたときとは違い、今は、自分の意思で誰かの役に立ちたい、人の笑顔と幸せが増えるような職業に就きたいと思うようになりました。昨年の職場体験学習では、保育所で体験をしました。私が募金活動に参加していた頃と同じ年頃の子どもたちとふれ合うことができました。体験をする中で見た子どもたちの笑顔は、今でも忘れられません。だからこそ、人を笑顔にできる職業に就きたいと思う気持ちが強くなりました。

これから私は、毎日の生活を当たり前の毎日だと思わないで、1日1日を大切に過ごし、今の自分にできること、一人一人ができること、あなたにしかできないこと、あなたと私たちが協力すればできることを考え、少しでも困っている人の手助けになりたいと思っています。そして、ひとつの地球で共に生きる私たち、世界には難しい課題もありますが、世界の仲間と一緒に乗り越えていきたいです。

私の願い。「笑顔と幸せが増えますように」言葉で表現することは簡単ですが、みんなの気持ちが1つになって、笑顔あふれる社会の実現に向けて、「笑顔と幸せが増えますように」の言葉を胸に日々生活していきたいと思います。



高校生 の 主張



■ 潮来高校 ■

私を作る大切なこと

3年 ぬか が あおい 額賀 葵

突然ですが、将来の夢はあります。私にもはっきりとは見えていません。高校生になった私は、以前より少しは、自分を見つめることができるようになったと感じます。また、そのおかげで、人生を自分のものとして生きてゆく楽しさも増えてきたように思います。私には幼い頃から大切に続けてきたことがあります。

その1つが挨拶です。出会った人への挨拶を欠かさないように心がけてきました。幼い頃の私にとっては、挨拶は儀礼的なものに過ぎなかったかもしれません。今は、挨拶は人間関係に潤いと温かさを与えてくれるものだと感じます。また、挨拶をする時には、相手の顔を見ます。きっと、お互いに相手の小さな変化に気づき、相手をより深く理解するきっかけを与えるものでもあると思います。挨拶を続けてきたことで、周囲との今の関係があり、幸福感につながっていると感じます。

2つ目は、感謝を伝えることです。「ありがとう」という言葉は、自分にも、伝えた相手にも、心地よさを感じさせます。声に出すだけで、人と人とを笑顔でつなげられる言葉です。

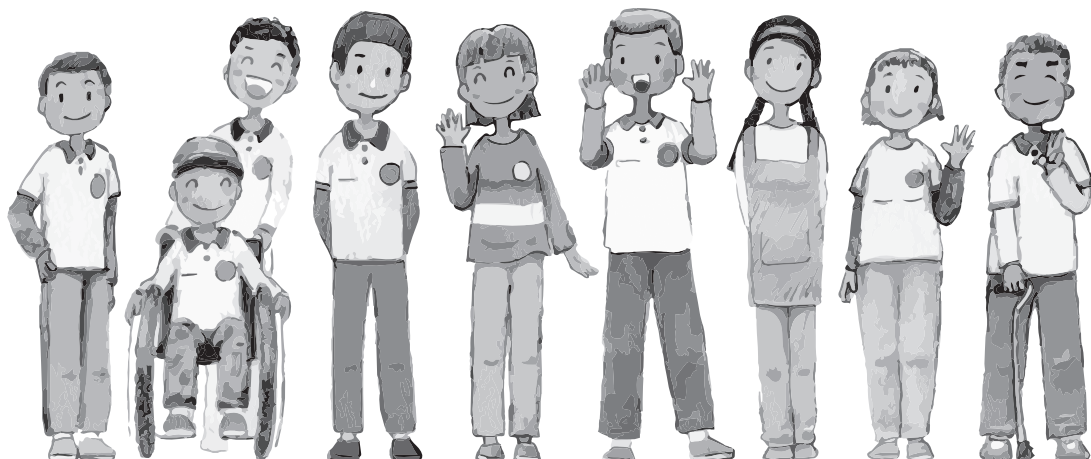
「ありがとう」という言葉には、もともと、「めったにないことをしてもらったという感謝の気持ち」が込められているそうです。世界には戦争が続いている国もあります。平和が守られていること、三食ご飯を食べられること、安心して眠れることも、どれも「当たり前」ではありません。普段は見えない誰かに支えられて成り立っている自分の人生というものに、目を向けさせてくれる言葉でもあると感じます。

3つ目は、誰かを支えることです。「ありがとう」という言葉が好きな私は、誰かを支えることも好きです。人に頼りにされることもとても嬉しいことです。その反面、私にとっては、

自分が助けてほしいときに、その気持ちを声に出すにはたいへんな勇気が必要でした。私の場合は、幸いにも気付いて手を差し伸べてくれる人が周囲にいましたが、世の中には私と同じように、「助けてほしい」と声をあげられないでいる人も多いのではないのでしょうか。人と人とが支え合うことは、簡単そうに見えて、実はとても難しいことだと思います。目まぐるしく変化する時代ですが、助けを求める人に気付いて、支える余裕のある世の中であってほしいと感じます。

中学校の頃までは、人前で目立つことや、先頭に立って行動することが苦手で、いつかそんな自分を変えたいと思っていました。高校に入学してからは、今なら人前に出て、多くの人の力になれるかもしれないと思うようになり、生徒会役員に立候補しました。生徒会の活動では、これまで経験したことがない様々なことに挑戦し、ここでしかできない経験を積みしました。勇気を出して一步を踏み出してみて、本当に良かったと思います。そして、挑戦することについて、今の私は次のように考えます。挑戦するチャンスが与えられたのに、そのチャンスを見逃してしまったら、もう二度とそのチャンスが巡ってこないかもしれない。たとえ失敗してしまっても、失敗から学ぶこともあるはずだ、と。振り返ってみて、生徒会の経験を通しての私の成長は、計り知れないほどだと感じます。これからも挑戦し続ける自分でありたいと願います。

幼い頃から心がけてきたこと、高校生活で挑戦したこれらのことは、これからの自分の礎を築いてくれると感じます。これからも訪れるたくさんの選択の場面で、自分の意思で選んだこと……楽しいこと、嬉しいことだけでなく、悲しいこと、苦しいこと……様々なことが自分を形作ってくれるはずです。思いっきり泣いて、思いっきり笑って、失敗もしながら、前を向いて歩いていけばいいのだ。そのようなことを、高校生活を通して学ぶことができた、嬉しく思います。



■ 潮来高校 ■

『臥薪嘗胆』

3年 ^{おかの}岡野 ^{ゆい}結衣

「エイッ!エイッ!」

道場内に大きくこだまする気合いがなぜだか私の心を強く惹きつけたことを今でも覚えている。

私は兄の影響で3歳から現在に至るまで極真空手の稽古に励んでいる。はじめは兄の稽古の様子を訳もわからず見学しているだけだったが、道場にいる全員の大きな気合いと力強い突きや蹴りにとても魅力を感じ、とにかく自分もやってみよう!と思ったのを鮮明に覚えている。

小学生の頃までは勝ち負けにはそれほど興味はなく、とにかく日々の稽古が楽しければそれで良いという感じだった。

中学生になる頃には、出場する大会で入賞する機会が多くなってきた。その分負けるとすごく悔しいとも感じるようになった。そう思うようになってから勝ち負けを意識して稽古するようになった。もちろん厳しい稽古もあったが、その分小学生の頃とは違う楽しさを感じるようになった。

また、この頃はコロナウイルスの影響も少なくなかった。普段稽古していた場所も使用することができなくなり、公園で稽古を行ったり、足りない分は自主練を行ったりとにかく工夫を凝らして空手へと向き合う時間を作った。

そして中学校最後の国際大会。それらの努力が実を結び、準優勝することができた。頂点まではあと一步届かなかったが、自分自身で積み上げてきたことは嘘をつかないと実感した。

高校に入学してからも頂点に立つことを目指して稽古に励んできた。

中学までの積み重ねのおかげか、学年が上がって年上の選手と対戦することがあっても負けることなく、良い成績を収めることができた。

しかしここから私は空手人生において大きな挫折を味わうこととなる。

高校2年生の時に、日本代表監督に推薦いただき体重別の全日本一般選手権に飛び級で出場することが決まった。今まで以上に一生懸命稽古に臨み、自信をもって大会当日を迎えた。

結果は初戦敗退。自信があったにも関わらず自分自身の強みを発揮することができなかった。

さらに同時期に全国強化選手合宿に参加した。ここには日本を代表する選手たちが集まっていた。高校生とはいえ、ある程度は通用するだろうと思っていたが、ここでも挫折感を味わうことになる。3日間にわたって行われる稽古の初日の稽古の時点で私はとにかくメニューをこなすことだけで精いっぱいだった。しかし、他の選手たちは、顔色1つ変えずに初日の稽古を終えていた。2日目以降も私は疲労が残り、思うように動けなくなっている中、他の選手たちは涼しい顔で合宿を終えていた。

一般選手権での敗北と強化合宿での実力不足が、私が高校生までに積み上げてきた自信を一気に消し去った。高校生の大会で入賞を重ね、頂点がもうすぐそこまで見えていると感じていたが、そんなことはなかった。

しかし、落ち込んでいても何も変わらない。そう思った私は、まず負けた試合の動画を見返し、どこが今の弱点なのか分析をするところから始めた。また強化合宿についていくことができなかったメニューを毎日何度も繰り返し取り組み、次こそはついていけるよう必死に練習した。

また、試合の度にセコンドについてくれる兄の言葉を思い出した。兄は私が試合会場のコートに入るまえに必ず声をかけてくれる。しかし絶対に「頑張れ」とは言わない。兄は大抵「楽しんで来い」と言ってくれる。

私は普段の稽古で頑張っている自負はあるが、はたして昔のように楽しめていただろうか。ふとそう思った。そこからは必死に練習するだけではなく、空手自体を純粋に楽しむことも意識した。

その結果、次の強化合宿では練習メニューについていけるようになった。一般の無差別全日本大会に出場した際には、勝ち上がることができ、入賞は逃してしまったが、新人賞をいただくことができた。

その功績が認められ海外で行われる世界団体戦の日本代表メンバーに選ばれた。初めての海外での大会だったが、外国人の選手相手にも劣ることなく順調に勝ち進むことができ、チームとして世界一に輝くことができた。

そして今年も体重別の全日本一般選手権に出場することになった。この大会で去年よりもよい成績であれば成長したといえる。その思いから普段以上に強い気持ちで臨んだ。結果として3位入賞することができた。結果はもちろんのこと、試合の内容も過去1番良い出来だった。

高校生になって大きな挫折を味わったが、そこで諦めず工夫して取り組んだからこそ、この結果を得られたと感じている。加えて「楽しむ」気持ちを意識したことでここまでの結果を得られたのだと思う。

そしてここまでの大会を通して、なにより感謝の気持ちを忘れてはいけないことを強く感じた。勝ち上がれば勝ち上がるほど、大会の規模が大きくなれば大きくなるほど、いつもサポートしてくれる両親や、セコンドについてくれる兄、稽古相手になってくれる道場生、今まで試合をしてきた対戦相手など関わってきた全員のおかげでここまでこれたと感じる。この感謝の気持ちだけでは何があっても忘れてはいけないと改めて胸に刻んだ。

ここまでの結果は私にとってはゴールではなく、あくまで通過点。私の最大の目標は無差別の世界大会で優勝すること。そのためにはまだまだ達成しなくてはならない課題が山積みだ。でも昔は夢だった世界大会優勝も、いまでは目標といえるほどに近づいているともいえる。空手を始めて14年が経つが、目標達成に近道はないと痛感する。でもだからこそやりがいがあるし、楽しい。これまでサポートしてくれた方々のためにも、もちろん自分自身のためにも、これからも一步一步着実に頂点までの階段を上っていきたい。

「エイッ!エイッ!」

今日も私は道場に響く大きな気合いを出して稽古に臨む。空手を始めたときのワクワクや楽しむ気持ちを忘れないために。そしてその姿を見て空手を始める次の子供たちのために。

講 評

潮来市教育委員会教育長職務代理者 小松崎 修平



本日発表していただいた11名の皆さん、発表が済んでほっとしていることと思います。皆さんは、落ち着いた態度で、素晴らしい発表でした。ありがとうございました。

発表を聞き終えて、単純に思ったのは、「若いって素晴らしい。明るい未来・ワクワクさせられた。」等です。

また、今回、大勢の前で自分の言葉でしっかりと発信したので、人生の大きな一歩になったに違いないと思います。

さて、小学生の『夢』についての発表は、プロサッカー選手、バスケットボール選手、パフォーマー、保護犬・保護猫を助ける、看護師と多彩で世界的な活躍まで期待させられるものでした。幼少・低学年の早い時期から、夢へのきっかけがあり、夢の実現への道筋が『自ら、気づき、考え、行動する』に加えて『学び合い』の流れに沿ったすばらしいものでした。しかも、周りに良い影響になりたいともありました。ぜひ、コツコツと日々の努力を積み上げて、夢の実現を目指していきましょう。

中学生の発表は、思春期らしい、『人と人との接し方・心の在り方』と言った葛藤を部活動、生徒会活動、ピアノ演奏、職場体験を通して迷いな

がら乗り越えて広めていきたい。といった真っ直ぐで、完璧を目指しながらも、思いやりのある考えが述べられました。案外、大人になって中学時代の文集など見直すと、素朴だが、なかなか的を得ていたんじゃないかと感じます。よって、人生の根っこになる時期かもしれません。これからの、多岐にわたる課題は「いつか誰かが…」でなく、あなたたち『自ら』がよりよき方向に変えていく時代です。大いに悩み大きく成長していきましょう。期待しております。

高校生の発表は、『自分を見つめ直す』、『空手道で学んだこと』でした。高校は義務教育と違って社会人により近くなって、真剣に自分と向き合い、切磋琢磨しながら成長し、自分と戦いながら難題を克服し、たくましくなり、考え方が徐々に外に向かって広がっていく姿が述べられていました。『継続は力なり』、苦勞して掴んだ成功体験は一生の宝です。これからは何が起ころうとおかしくない時代ですが、この3年間で学んだことが何事にも『挑戦する』、大きな支えとなることでしょう。これからも、周りにもよい刺激となる存在となっていきましょう。

最後になりましたが、指導に当たられました各学校の先生方、ご協力していただきました潮来高校生徒会の皆様、陰で支えてくださった、ご家族、関係諸機関の皆様方に感謝申し上げます。

次回事業のお知らせ

令和8年2月18日(水)～22日(日)

水郷まちかどギャラリーにて

『家庭の日』絵画・ポスター展を開催します。

市内小中学生の「家庭の日」をテーマにした作品を展示しますので、ぜひお越しください。



あなたの地区の潮来市青少年相談員をご存じですか？

子どもたちの安全を見守ります

11月1日（土）、地域の青少年健全育成にご協力いただいている『青少年の健全育成に協力する店』を訪問し、地域の青少年の状況の聞き取りを行いました。

また、小・中学校と連携し、秋のあいさつ運動を実施しました。11月6日には、潮来高校と協同でマナーアップキャンペーンを行いました。

青少年相談員は、ブルーの帽子・グリーンのベスト・腕章を身につけて活動を行っています。

青少年相談員は、これからも子どもたちが犯罪や非行行為に巻き込まれないよう、活動を行っていきます。

青少年の健全育成の情報は下記まで

お問い合わせ先

潮来市教育委員会 生涯学習課

青少年相談員担当

電話 66-0660



- | | |
|----------------|----------|
| ① 社会環境整備活動 | ② 花火大会巡視 |
| ③ 二中学区 | あいさつ運動 |
| ④ 日の出中学区 | あいさつ運動 |
| ⑤ 一中学区（潮来小） | あいさつ運動 |
| ⑥ 一中学区（津知小） | あいさつ運動 |
| ⑦ マナーアップキャンペーン | |

編集後記

令和七年度「潮来市青少年のつどい」で、たくさんのお応募の中から選ばれた十一人の子どもの私たちの青少年の主張を通じて深く感銘を受けました。自分の夢や想いを、自身の言葉で発表する姿がとても頼もしく、かつこよく、素晴らしかったです。これからもその夢や想いを胸に一步一步進んで行ってください、私たち大人も全力で応援していきたいと思っています。

特別演奏の潮来第一中学校の生徒による潮来ばやし演奏は、大変迫力のあるものでした。地域の方々と一緒になって、潮来ばやしを守っていく活動に地域の方々と子どもたちの繋がりを感ずる素晴らしい演奏でした。子どもたちのために私たち大人として、一生懸命サポートしていきたいと思っています。ありがとうございました。（草野 真一）

広報委員会

事務合局

委員長	篠塚 洋一
委員	志藤 幸也
委員	越川 文子
委員	草野 真一
委員	金塚 茂
事務局長	大崎 優一

青少年育成潮来市民会議
潮来市青少年相談員連絡協議会
（潮来市立中央公民館内）
Tel 六六〇・六六〇